

海外研修報告書

ハワイ大学との国際交流プログラムの一環として、2013年2月に米国ハワイ州にある Kuakini Medical Center で臨床実習に参加させていただきましたので、ご報告させていただきます。

【研修プログラムの概要】

期間：2013年2月4日(月)～3月1日(金)の4週間

場所：米国ハワイ州 Kuakini Medical Center(KMC)

(1990年4月に日本慈善病院として日本人の移民によって設立されました。現在は250床の急性期病床があり、慢性期病棟も併設されています。)

内容：家庭医のクリニックでの実習(1週間)、KMCでの内科実習(3週間)、

Dr. Little によるプレゼンテーションの講義(週1回)

【2月4日(月)～2月10日(日) 家庭医である Dr. Jinchi Tokeshi のクリニックでの実習】

Dr. Jinchi Tokeshi は沖縄出身の日本人で、高校卒業後医師になるため渡米し、長らく献身的に家庭医療に携わっておられるハワイで有名な医師です。3世代、4世代にもわたって診ているご家族もいるそうです。また、学生の教育・指導にも非常に熱心な先生で、ハワイ大学の学生や日本からの学生をクリニックで受け入れています。

<Tokeshi Dojo での一日のスケジュール>

4:00～ Round：問診、診察、カルテ記載

6:30～ Dr. Tokeshi と共に Round

8:30～13:00 Output Patient：外来見学、問診や採血

14:00～16:30 Output Patient (水・土以外)

※水曜の午後は Nursing home(老人ホーム)に診察に同行

17:00～ Round

早朝の回診から一日がスタートします。毎朝4時から Dr. Tokeshi のすべての入院患者の問診や身体診察、カルテ記載を行い、6時30分から Dr. Tokeshi と共に回診をします。海外からの医学生は基本的に一人での診察や公式なカルテ記載は認められていないのですが、Dr. Tokeshi の患者さんではそれが認められており、一人で診察をしたり公式なカルテに記載したりすることができました。

その後 KMC の隣のビルにある Dr. Tokeshi のクリニックに移動し、外来診療が始まりま

す。外来患者さんの多くは高血圧や高脂血症などの生活習慣病の定期受診ですが、発熱や骨折などで受診される患者さんもいます。また、診察室のひとつは手術も可能で、実際に手術や外傷の処置も見学することができました。内科疾患にとどまらず、家庭医として幅広く診療をされていました。この外来実習では、診察の見学だけでなく、問診や採血などもさせていただき、多くの患者さんやその家族と接することができました。

日本の歴史や自身の武道の経験を通して辿り着いた **Dr. Tokeshi** にとっての医師としてのあり方や患者さんへの接し方など様々なお話を聞かせていただき、医師と患者の関係について改めて考える良い機会となりました。 **Dr. Tokeshi** のクリニックでの1週間を通して医師にとって大切な心構えも学ぶことができ、今後の目標となる医師に出会えた家庭医療実習でした。

【2月11日(月)~3月1日(金) KMCでの内科実習】

KMCの内科では、A、B、C、Dの4つの内科チームで内科の入院患者の治療にあたります。私は、3年目のレジデントとインターン（1年目のレジデント）、ハワイ大学の3年生と4年生の学生の4人からなるチームに配属され、3週間の病棟実習に参加しました。内科チームでは診療科にとらわれずあらゆる内科疾患の患者を担当し、その重症度も様々です。さらに4日に一度、on-callの日があり、通常の病棟業務に加えて、救急部からの入院患者を全てon-call担当のチームで受け入れます。on-callの日は、学生は19時、インターンは22時頃には帰宅しますが、レジデントだけは翌朝までの勤務で、ナイトフェローという夜間担当のレジデントとともに、夜間は他の内科チームの患者の急変にも対応します。

内科実習の一日のスケジュールは以下のようになっていました。

6:00~ Round : 担当患者の問診、診察、カルテ記載

7:00~ チームでの情報交換、治療方針のディスカッション

7:30~ Sign-In Rounds : チーフレジデントに前日入院となった患者の報告を行う。

8:00~ Morning Report (月・金) + 循環器内科医によるレクチャー

: 担当の内科チームが症例発表をし、鑑別診断や治療方針の検討を行う。

9:30~ ICU Round

: 各チームから全てのICU患者の経過・治療方針の報告があり、ICU専属の医師と内科チームでディスカッションを行う。

11:00~ 循環器内科医による心電図のレクチャー(3週目と4週目の水曜日)

16:00~ Sign Outs : on-call担当のチームに、担当患者についての引継ぎを行う。

この他に、毎週土曜日の朝にはレジデントによる症例発表とそれに関連した論文の抄読会も行われます。また、週に1回 **Attending Round** があり、チームの指導医に対して症例報告を行い、治療方針のディスカッションをし、実際に指導医と共に患者さんの診察もします。この **Round** では指導医からプレゼンテーションに対するフィードバックや質問、レ

クチャーがあり、レジデントや学生の教育の役割も果たしています。

指導医だけでなくレジデントやインターンも、積極的に学生に対してレクチャーをするなど、学生の教育、指導にも力を注いでいます。今回の内科実習中に、チームのレジデントとインターンから基本的な病態から最新の治療まで様々なトピックのレクチャーを受けることができ、担当患者さんの病態や治療方針の理解がより深まりました。このように、指導医はレジデントを教え、レジデントはインターンや学生を教えるといったように、教育・指導するという意識が深く浸透しているよう感じました。

また、ハワイ大学の学生は担当患者の治療方針や必要な検査について活発に自分の意見を述べたり、専門医へのコンサルテーションを行ったりと、日本の学生よりも「チームの一員」として診療に関わっていました。さらに彼らは、“up to date”を用いてエビデンスに基づいた最新の情報の収集も心がけていました。このようなハワイ大学の学生の実習に対する姿勢にも大変刺激を受けました。臨床実習をより充実したものにするためには、やはり学生自身が「チームの一員」という意識を持って積極的に参加することが大切であると思いました。

チームのレジデントやハワイ大学の学生と共に診療に参加させていただく中でアメリカの医療や医学教育を自分の肌で感じ、また、多くの発見・学びがあり、とても充実した3週間を送ることができました。

【Dr. Doric Little によるプレゼンテーションの講義】

週に1度、スピーチ学で有名なハワイ大学の Dr. Little によるプレゼンテーションの講義があります。自分が担当した患者さんのフルプレゼンテーションを行い、英語の発音やプレゼンテーションをする際の表情、立ち方、間のとり方など細かく指導を受けます。時には1つのプレゼンテーションに30分以上もかけて丁寧な指導が行われます。この講義にはハワイでレジデントをしている日本人医師も複数参加されており、Dr. Little に鍛えられた素晴らしいプレゼンテーションも聞くことができ、私自身のプレゼンテーションを改善していく上で、大変参考になりました。

日本では学生が病棟実習中にプレゼンテーションをしたり、その方法を学んだりする機会は、アメリカに比べて少ないと思います。ハワイ大学の学生が回診やカンファレンスでまるで日本の研修医のようにプレゼンテーションを行うことができているのは、プレゼンテーションをする機会が多く、またフィードバックを受けているからだと思います。プレゼンテーションの技術は情報を共有する上で必要なスキルであり、学生のうちからプレゼンテーションの技術を高めるために練習や経験を積んでいきたいと思っています。

【実習を終えて】

学生時代にアメリカの医療や医学教育に直接触れることができたことは大変貴重な経験でありましたし、また、家庭医療、チーム医療に参加し素晴らしい医師や学生、患者さん

からたくさんのごことを吸収することができ、かけがえのない実習になりました。良き医療人となり、生まれ育った佐賀の医療に貢献できるように、今回の海外臨床実習を通して学んだことを今後の臨床実習や卒業後も活かして、広く通用する臨床スキルを身につけていきたいと考えています。また、今後も多くの佐賀大学の学生に、海外での臨床実習に積極的にチャレンジしてほしいと思います。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい海外臨床留学の機会を下さった先生方、医学部同窓会の皆様、現地でお世話になった **Kuakini Medical Center** とハワイ大学医学部のスタッフの方々に心から感謝申し上げます。